

『「ひょうご農林水産ビジョン2030」の現状と今後の見直しの方向性について』

- I 具体的な課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 4
- II ビジョン見直しの方向性・・・・・・・・・・P.15

ビジョン見直しまでのロードマップ

ビジョン骨格

1 農林水産ビジョンの策定にあたって

第1回総会（R6.6.27）で審議

2 食と「農」を取り巻く情勢の変化

第1回総会（R6.6.27）で審議

3 農林水産ビジョン2030に基づく取組の評価

第1回企画部会（R6.8.27）で審議

4 具体的な課題

今回審議

5 ビジョン見直しの方向性

今回審議

6 農林水産ビジョン2035のめざす姿・施策体系

第3回企画部会（R6.11.28）で審議

7 ビジョン骨格

第2回総会（R7.1.30）で審議

8 めざす姿を実現するための施策展開

令和7年度に審議

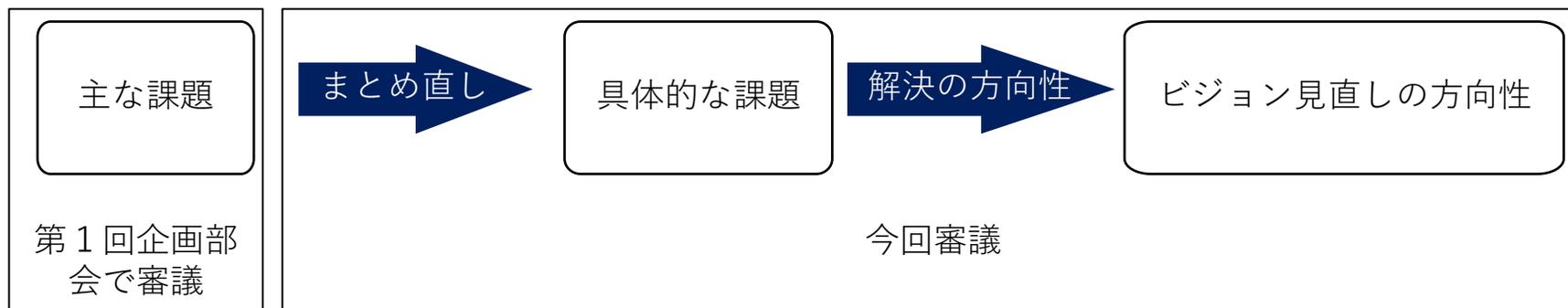
本日の審議内容

「ひょうご農林水産ビジョン2030」の見直しにあたって、農林水産の現状と今後の方向性に関して、下記の項目などについて、ご意見をいただきたい。

- I 具体的な課題に追加すべき事項
- II ビジョン見直しの方向性

など

参考



第1回企画部会でのご意見（抜粋）

- (1) 環境創造型農業に関する課題は記載されているが、有機農業に関する課題が見えないので、もう少し書いた方がいいのではないか。
⇒主な課題として、「有機農産物の生産性向上と流通の効率化」を追記する。
- (2) 他県のように、兵庫県でも原木、木材の輸出で外貨を稼ぐということができないか。
⇒主な課題として、「住宅資材など付加価値の高い木材製品の輸出に向けた取組の推進」を追記する。
- (3) 流通が大きな課題となっているので、記載したほうがいいのか。
⇒主な課題を修正し、「輸入に依存しない食生活の推進」、「情勢の変化に左右されにくい生産流通体制の構築」とする。
- (4) 海業のどの部分に力を入れるのか、もう少し丁寧な課題設定をする方がいいのではないか。
⇒主な課題を修正し、「漁港施設等の活用による水産物の消費増進（販売施設等）や他地域との交流促進(漁業体験等)による海業の振興」とする。
- (5) 人口が減少する中では、生産量の増加を目標とするよりも、質に関する目標とする方がいいのではないか。
⇒今後、新ビジョンに基づく施策及び指標を決定する際に検討する。

I 具体的な課題

1 農業

(○) 具体的な課題

課題の内容説明

⇒関係する主な課題（赤字は第1回企画部会後に追加・変更したもの）

(1) 環境と調和のとれた農業技術の開発・普及・定着

温暖化等気候変動の影響を軽減し、持続的に生産を行うため、環境と調和のとれた農業の推進や新品種の開発・普及が必要

- ⇒①新規病害虫等の侵入警戒や早期発見、効果的な防除方法等の研究・普及
- ②気温の上昇等の影響を回避・軽減するための技術開発と適応技術の現場への普及拡大
- ③高温に強い品種の開発・普及
- ④施肥量の適正化、減化学肥料栽培技術の確立・普及など低コスト構造への転換
- ⑤経営として成り立つ、有機農業・環境創造型農業の推進
- ⑥耕畜連携の推進
- ⑦輸入依存度の高い麦・大豆の生産拡大
- ⑧組織化や産地化による環境創造型農業の取組拡大
- ⑨土壌分析による施肥量の適正化など環境負荷低減や低コスト構造への転換
- ⑩農薬の使用量の削減など環境に配慮した取組の拡大
- ⑪地球温暖化対策への貢献など新しい視点を加えた環境創造型農業の推進
- ⑫有機農産物の生産性向上と流通の効率化

(2) 野菜など園芸作物の生産拡大

消費地に近いという本県農業の強みを最大限に発揮するため、園芸作物の生産拡大が必要

- ⇒①省力化及び収量性の向上
- ②スマート農業の普及拡大
- ③産地の育成、維持拡大

I 具体的な課題

1 農業

(3) 将来の担い手である新規就農者や法人経営体の育成・地域協働体制を担う多様な農業者の確保
基幹的農業従事者の高齢化や農業就業者数が減少するため、多様な担い手の確保・育成が必要

- ⇒①女性が力を発揮できるような環境整備などの推進
- ②法人経営体や集落営農組織の育成
- ③農地の持続的な活用保全を図るため、地域農業を支える多様な人材の確保

(4) **労働力の確保**

国内人口の減少が見込まれる中、労働力を確保するため、雇用就労環境の整備やスマート化が必要

- ⇒①雇用就労環境の整備による労働力の確保
- ②労働力不足に対応するため、スマート化（サービス事業体の活用含む）の促進

(5) **農林水産物のブランド化による付加価値向上や国内外での販路開拓による経営体の収益力の向上**

経営体の収益力の向上のため、ブランド化や6次産業化、異業種連携や輸出促進などの取組が必要

- ⇒①環境保全の視点に立った県産農林水産物のブランド化

(6) **担い手への農地の集積・集約化**

農作業の低コスト・省力化による経営の効率化を図るため、農地の集積・集約が必要

- ⇒①優良農地の確保
- ②効率的・安定的な農業経営のための生産基盤の確立
- ③スマート農業の導入を可能とする基盤整備や施設の長寿命化などのインフラ整備
- ④地域計画の実現に向けた県・関係機関・団体等の連携

(7) **都市農業の推進**

食料の安定供給や農業の多面的機能の理解醸成を図るため、都市農業の推進が必要

- ⇒①立地を活かした収益性の高い都市農業経営の展開
- ②都市農地の活用推進

I 具体的な課題

2 畜産

(1) 持続可能な畜産業の実現

環境に配慮し生産形態・コストに見合った、持続可能な畜産業の実現が必要

- ⇒①長期的視点に立った耕畜連携による飼料作物の増産
- ②畜産堆肥の流通拡大
- ③持続可能な酪農経営への移行による生乳生産量の維持・拡大
- ④スマート畜産業の推進
- ⑤持続可能な畜産業の実現に向けた県民の理解醸成

(2) 気候変動に対応した畜産技術の開発・普及・定着

温暖化等気候変動に影響されず、安定的に生産を続けるため、牛群改良や生産技術の開発・普及等が必要

- ⇒①暑熱に強い牛への改良や畜舎環境の改善など気候変動への対応強化

(3) 需要に応じた神戸ビーフの供給

旺盛な神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛の増頭・増産が必要

- ⇒①但馬牛・神戸ビーフの増頭・増産

(4) 国内外に向けた県産畜産物の発信強化

需要を創出するため、国内外に向けた県産畜産物の発信強化が必要

- ⇒①但馬牛・神戸ビーフの国内外に向けた更なる魅力発信
- ②鶏卵・鶏肉の国内外に向けた魅力発信
- ③コスト上昇に対する価格転嫁など畜産業の継続に向けた県民の理解醸成

I 具体的な課題

3 森林林業

(1) 環境と調和のとれた持続可能な森林林業の実現

県産木材の安定生産や森林の持つ多面的機能の発揮には、資源循環型林業の実現が必要

- ⇒①資源循環型林業の実現に向けた「主伐・再造林低コスト普及モデル」の普及促進
- ②架線系集材技術など木材の安定生産・増産につながる技術の普及推進
- ③林道・作業道の開設、既設林道の機能強化や維持管理、高性能林業機械の導入の促進
- ④森林クラウド等による森林資源情報の共有・活用など、省力的・効果的な取組の更なる推進
- ⑤市町等へのJクレジット制度活用の更なる普及と、その収益による森林整備の促進

(2) 林業の担い手の確保・育成

県産木材の安定供給体制の継続に向けて、林業就業者数の確保・育成が必要

- ⇒①新規就業者の確保・定着の促進に向けた林業事業体の就労環境改善等の推進
- ②多様な担い手の参入につながる自伐型林業に係る人材育成

(3) 木材の需要拡大の推進と加工流通体制の強化

県産木材の需要拡大に向けて、新たな需要の創出や販路先の拡大が必要

- ⇒①住宅分野での県産木材のシェア拡大と非住宅分野での木造・木質化推進
- ②非建築分野での需要拡大や新たな需要の創出
- ③海外市場の動向を見極めつつ、住宅資材など付加価値の高い木材製品の輸出に向けた取組の推進

I 具体的な課題

3 森林林業

(4) 県産木材の認知度向上のため、新たな価値創出や木の良さを伝える木育等の推進

県産木材の認知度の向上や需要拡大に向けて、新たな価値創出や木育等の推進が必要

⇒①県産木材の認知度を高める新たな価値創出や木の良さを伝える木育等の推進

(5) 森林の持つ公益的機能の維持・向上

森林が有する水源涵養や山地防災機能等を発揮するためには、適正な森林管理が必要

⇒①森林所有者が管理できない人工林の森林経営管理制度に基づく管理スキームへの移行の推進

②森林ボランティアや企業など、多様な主体による森づくり活動の推進

③条件不利地等の人工林における針広混交林化の推進

④森林整備の重要性に対する企業や都市住民の理解醸成

I 具体的な課題

4 水産業

(1) 豊かな海と持続的な水産業の実現

豊かな海の再生を目指した栄養塩濃度の早期回復と漁業者の取組支援、水産資源の生育の場となる漁場整備や栽培漁業の推進などが必要

- ⇒①豊かな海の再生に向けた適正な栄養塩管理等の推進
- ②水産資源の増殖に資する産卵場・稚魚育成場・藻場等の漁場整備
- ③「豊かな海再生種苗」の種苗放流など栽培漁業の推進
- ④豊かな海と持続的な水産業の実現への、地域住民や消費者の理解醸成

(2) 海域環境の変化に対応した水産資源の適正管理と水産技術の開発・普及

持続可能な水産業に向けて、海域環境のモニタリングと水産資源の調査に基づく適正な資源管理の実施や養殖技術の開発・普及などが必要

- ⇒①継続的な水産資源の調査充実と適正な資源管理の導入を支援
- ②温暖化等海洋環境の変化に対応した新しい養殖技術の開発と普及
- ③省エネ型の漁船の導入によるグリーン化
- ④ICT等先端技術の活用

(3) 漁業の担い手の確保・育成と経営力の強化

次代を担う漁業後継者等の確保・育成と漁船や漁業施設の更新・導入・整備が必要

- ⇒①新規就業者や船員等将来の担い手となる漁業後継者の確保・育成
- ②省エネ型漁船や省力化機器の導入支援によるコスト削減等により収益性を向上

I 具体的な課題

5 食料・消費

(1) 県民への農林水産物の安定供給

県民へ農林水産物を安定供給するためには、家畜の防疫体制の強化や生産流通体制の構築などが必要

⇒①重大家畜伝染病に対する防疫体制の強化

②情勢の変化に左右されにくい生産流通体制の構築

③消費者・実需者ニーズをとらえ、県産農林水産物の特色を活かした商品の開発・販路拡大

(2) 県産県消の推進

県民への安定的な農林水産物の供給のため、消費者と生産者がともに支え合う関係の構築が必要

⇒①輸入に依存しない食生活の推進

(3) 県民の食の安全・安心の確保

食の安全・安心を確保するための取組が必要

⇒①食の安全を支える生産体制の構築及び生産者の取組に対する消費者の理解醸成

(4) 農林水産業への県民の理解醸成

農林水産の多面的機能や多様な担い手の確保、農林水産物の適正価格での流通などを図るためには、県民の理解醸成を図ることが必要

⇒①楽農生活を通じた農林漁業体験の充実による農林水産への理解醸成

②子どもに対し、将来的に農林水産業経営の実践につながるような学習の機会を提供する取組の拡大

③生産者の収入や所得の確保のため、消費者の理解醸成と農林水産物の継続購買

④県産県消による生産者と消費者の支え合いや地域の自然・食文化等への理解醸成

⑤おいしいごはんを食べよう県民運動等を通じた食と健康についての理解醸成

I 具体的な課題

6 農山漁村

(1) 強みとなる地域資源を活かした地域づくりの推進

農山漁村の発展に向けて、地域の特色や食文化などを活かした地域活性化の取組が必要

⇒①集落機能の維持と農山漁村を活性化する取組の拡大

②農林水産業以外にも仕事を創出し、年間を通じた安定的な雇用環境や一定の給与水準の確保

(2) 都市と農山漁村の交流による地域活性化

農山漁村の関係人口や移住者の増加に向けて、都市と農林水産の交流が必要

⇒①農作業体験など都市と農山漁村の交流による地域活性化

②都市と農山漁村が近接し、五国が持つ多様な特長を活かした、観光分野との更なる連携強化

③都市住民等と農山漁村をつなぐ仕組みづくり

(3) 野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制づくり

農山漁村の農業生産の維持・発展に向けて、野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制整備が必要

⇒①野生鳥獣の効率的な捕獲や増殖の防止などの効果的な対策の研究及びジビエの利活用の普及

(4) 良好な空間の保全

多面的機能の維持や、交流・憩いの場を創出するため、良好な空間の保全が必要

⇒①都市部においても農家と地域住民の交流を図り、良好な農空間を保全

②繁茂した不要木や侵入竹の伐採など荒廃した里山林の再生

I 具体的な課題

6 農山漁村

(5) 他分野との連携の拡大

農山漁村に関わる人々を増加させるため、他分野との連携の拡大が必要

⇒①農福連携の対象者について、障害者だけでなく、高齢者等へ対象を広げた取組の拡大

(6) 防災・減災対策

地域住民の安全確保のため、治山ダムや防潮堤など保全施設の整備が必要

⇒①地震・津波等防災対策と漁業生産活動に必要な施設の維持保全等漁港施設の整備

②山地防災対策として治山施設整備や森林整備の推進

③ICTの活用による農山漁村の防災・減災対策

④災害時にも生活や事業を継続して行うため、平時から有事に備えた対策の実施

⑤ため池の治水活用など防災機能の確保や向上も含めた基盤整備

(7) 地域資源の価値や魅力を活かした海業の振興

漁業関係者の所得向上や漁村地域の活性化のため、海業の振興が必要

⇒①漁港施設等の活用による水産物の消費増進（販売施設等）や他地域との交流促進(漁業体験等)による海業の振興

I 具体的な課題

7 環境負荷低減

(1) 環境と調和のとれた農林水産物に対する消費者の理解醸成

環境創造型農業農産物の安定生産のため、実需者等への理解醸成を図り、需要拡大を図ることが必要

⇒①環境創造型農業農産物の需要拡大のため、実需者や消費者への理解醸成

(2) バイオマスの利用拡大に向けた取組拡大

持続的な農林水産業を推進するため、地域資源を活用した取組を拡大することが必要

⇒①地域に存在するバイオマスの堆肥への活用など、農林水産分野が先導的に循環型社会を形成

(3) カーボンニュートラルの取組の拡大

農林水産業を持続的に行うためには、温暖化などを進行させない取組が必要

⇒①Jクレジット制度の取組拡大による農林業の重要性の理解醸成

②ブルーカーボンによる二酸化炭素固定・貯留の取組の推進

③カーボンニュートラルの観点を取り入れた県産県消の推進

II ビジョン見直しの方向性

見直しの方向性	考え方
<p>1 環境と調和のとれた持続可能な農林水産業の実現</p> <p>(1) 地域の特色や立地を活かした持続可能な農業の展開</p> <p>(2) 需要に応える持続可能な畜産業の推進</p> <p>(3) 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進</p> <p>(4) 豊かな海と持続的な水産業の実現</p> <p>(5) ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開</p> <p>(6) 県民への安定的な食料供給</p>	<p>環境負荷低減と生産性を両立し、持続可能な儲かる農林水産業の実現を図る</p> <p>農・畜・林・水産業の見直し方向をそれぞれ記載</p> <p>ブランド力の向上やブランド力を活かした販路拡大、6次産業化・異業種連携などの推進によって、生産拡大や所得向上を図る</p> <p>安定的に食料供給するため、家畜防疫の徹底等によって持続可能な生産体制を構築する</p>
<p>2 多様な人材が活躍する農山漁村の創出</p> <p>(7) 地域資源を活かした地域づくりの推進</p> <p>(8) 農山漁村の防災・減災対策の推進</p>	<p>地域資源を活用し、多様な人材が関わり、活躍できる農山漁村の創出を図る</p> <p>地域の特色や食文化などの地域資源を活かした持続的で活力ある農山漁村社会の実現を図る</p> <p>農山漁村の防災・減災対策の推進などによって、安心・安全な農山漁村づくりを図る</p>
<p>3 県民とともに育む豊かな食・暮らしの充実</p> <p>(9) 多様な分野との連携強化</p> <p>(10) 消費者への理解醸成</p>	<p>農林漁業者と県民が連携することによって、ともに育み豊かな食・暮らしの充実を図る</p> <p>農林水産業・農山漁村と福祉・観光・健康・食品等の分野との連携によって、豊かな食・暮らしの充実を図る</p> <p>消費者に農林水産の理解醸成を図ることで、地産地消など地域が農林水産を支える仕組みの構築を図る</p>

II ビジョン見直しの方向性

(○) ビジョン見直しの方向性

⇒具体的な内容

16

1 環境と調和のとれた持続可能な農林水産業の実現

(1) 地域の特色や立地を活かした持続可能な農業の展開

- ⇒①環境と調和のとれた農業技術の開発・普及・定着を図る
- ②野菜など園芸作物の生産拡大を図る
- ③担い手への農地の集積・集約化を図る
- ④都市農業の推進を図る
- ⑤将来の担い手である新規就農者や法人経営体の育成・地域協働体制を担う多様な農業者の確保を図る
- ⑥労働力の確保を図る

(2) 需要に応える持続可能な畜産業の推進

- ⇒①持続可能な畜産業の実現を図る
- ②気候変動に対応した畜産技術の開発・普及・定着を図る
- ③需要に応じた神戸ビーフの供給を図る
- ④国内外に向けた県産畜産物の発信強化を図る

(3) 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進

- ⇒①環境と調和のとれた持続可能な森林林業の実現を図る
- ②森林資源の循環利用と林業経営の効率化を図る
- ③木材の需要拡大の推進と加工流通体制の強化を図る
- ④森林の持つ公益的機能の維持・向上を図る
- ⑤林業の担い手の確保・育成を図る
- ⑥カーボンニュートラルの取組の拡大を図る

II ビジョン見直しの方向性

1 環境と調和のとれた持続可能な農林水産業の実現

(4) 豊かな海と持続的な水産業の実現

- ⇒①豊かな海と持続的な水産業の実現を図る
- ②海域環境の変化に対応した水産資源の適正管理と水産技術の開発・普及を図る
- ③漁業の担い手の確保・育成と経営力の強化を図る

(5) ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

- ⇒①農林水産物のブランド化による付加価値向上や国内外での販路開拓による経営体の収益力の向上を図る
- ②県産木材の高付加価値化を図る

(6) 県民への安定的な食料供給

- ⇒①県民への農林水産物の安定供給を図る
- ②県民の食の安全・安心の確保を図る

II ビジョン見直しの方向性

2 多様な人材が活躍する農山漁村の創出

(7) 地域資源を活かした地域づくりの推進

- ⇒①強みとなる地域資源を活かした地域づくりの推進を図る
- ②バイオマスの利用拡大に向けた取組拡大を図る
- ③都市と農山漁村の交流による地域活性化を図る
- ④野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制づくりを図る
- ⑤良好な空間の保全を図る
- ⑥地域資源の価値や魅力を活かした海業の振興を図る

(8) 農山漁村の防災・減災対策の推進

- ⇒①防災・減災対策を図る

3 県民とともに育む豊かな食・暮らしの充実

(9) 多様な分野との連携強化

- ⇒①他分野との連携の拡大を図る

(10) 消費者への理解醸成

- ⇒①県産県消の推進を図る
- ②県産木材の認知度向上のため、新たな価値創出や木の良さを伝える木育等の推進を図る
- ③農林水産業への県民の理解醸成を図る
- ④環境と調和のとれた農林水産物に対する消費者の理解醸成を図る